

## 事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和6年 2月 28日

公表: 令和 6 年 3 月 1 日

事業所名 グランディールキッズまめびよ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動に合わせて部屋をパーティションで区切ったり、遊戯室を使用している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		基準の基づく人員配置をしているが、活動や個々の状態に応じて十分な配置が出来るようにしている。	職員の大半が子育て世代であり、急な休みが重なる事があるため、余裕を持った人員配置を検討する。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子ども達に伝わる手段を考え生活空間の環境整備に努めている。	個々の状況に応じて環境を見直ししていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		日々の清掃に加え、園内の感染症の流行状況を見ながら看護師と相談し物品の消毒を行い清潔を保つようしている。	気持ちよく園生活を送れるよう子ども達にとって望ましい環境づくりを目指す。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		チームの目標を立て日々の振り返りと共に半期ごとに目標を振り返り改善に努めている。	部署内、個人それぞれ目標を立て振り返り達成度を確認していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の評価表を参考に業務の改善に努めている。保護者の声を職員間で共有し改善に向けて話し合うようにしている。	日頃から安心して利用していただけるよう、情報の共有や職員の育成に努める。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		毎年実施している。	職員間で課題を共有し、次年度への改善につながるよう努める。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		他部署等、違う視点からアドバイスをもらい業務改善につなげる。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修報告書にて全職員に学んだことを伝達し共有できるようにしている。	全職種が研修に参加できるよう年1回は法人の思いのすり合わせを含めた研修を行っているので、日々の業務内でも振り返る機会を十分に持てるよう努める。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		年齢に応じた調査票を用い、家庭での様子と事業所内での様子をそれぞれの視点から見て情報をすり合わせている。	本人にとって今必要な事は何か、先を見越した時に必要となる事は何かを保護者の想いを汲み取りながら見極めていく。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		年齢別の基礎調査票を用い特性を把握している。	特性を把握しながら適切な対応を行い成長を促す事が出来るよう努める。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		家庭の状況と事業所での状況を含め本人の為に必要な支援をご家族と共に考えている。	必要な時に必要な支援が出来るように先を見据えて支援の準備を常に続けていけるよう努める。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		個々の状態に合わせた様々な支援を保護者と共にすり合わせ設定している。	個々の発達状況を見ながらその都度職員間での話し合いの時間を設け支援している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		必要な支援を視野に入れながらクラス毎や職種ご毎に意見を出し立案している。	関わる全ての職員の情報共有に努める。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		年間の目標を立て、その姿に近づくように月ごとにねらいを立てている。	季節を感じたり、子ども達が興味を向けられるにはどうしたらよいかを発達を促す視点を大事にする。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		個々の状況を見極め個別、集団のそれぞれのねらいを明確にし作成している。	個々の特性や成長段階を見極め、集団の中での個別的な関りを大事にする。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		当日の活動内容及び目的や配置を前日に話し合いホワイトボードに記し職員間で共有するとともに、当日始業前の朝礼で見直す。	打合せで職員の役割を明確にし子ども達が快適に過ごせるよう努める。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後クラス単位で振り返り全体での共有が必要な事は翌日の朝礼にて共有する。	当日出勤していない職員への共有を怠らない。職員それぞれが役割を持ち責任を持って共有する。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の記録を基にモニタリング時の担当者会で課題や見直しを明確にしている。	日々の記録を充実させるとともに、課題を明確にし取り組む。
20	定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		4ヶ月ごとのモニタリングを行い個々の成長に合わせ支援内容を見直している。		

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	積極的に参加し情報共有に努めている。	児童発達支援管理責任者だけでなく支援を直接担当する保育士や看護師が可能な限り参加出来るよう調整に努める。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	必要に応じ関係機関と連携し情報共有に努めている。	積極的な連携に努める。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	連携した支援を行うため情報を共有したり、必要な支援を検討できるよう努めている。	積極的な連携に努める。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	月に一度利用児の姿やケアについて事業所内で話し合った内容を主治医と共有している。	それぞれの機関が力を発揮し協力体制がうまく取れるよう日頃からのコミュニケーション作りを努める。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	移行のための情報提供資料を作成し、必要な引継ぎをスムーズに行えるようにしている。	積極的な連携に努める。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	移行前には必ず学校へ連絡し支援内容の共有が出来るようにしている。書面で共有する事が多いが必要に応じ話し合いの場を設けている。	相談支援や就学相談との連携も密にしスムーズな移行へと繋げる。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	他の児童発達支援センターの意見を伺い情報共有したり役割を確認している。	近隣の市の児童発達支援センターと連携し研修や情報交換をしていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	定期的に地域のこども園と交流する機会を持っている。	子ども達にとってより充実した交流となるよう、園と話し合いながら進めていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	可能な限り参加し、やむを得ず欠席する場合は、法人内の会議出席者と十分な情報共有をしている。	出来る限り出席できるよう調整する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	登降園時には保護者と子どもの状況確認を行っている。	日頃より話す機会を大切に話しやすい環境となるよう努める。職員間で互いの振舞いについて話すようにしている。
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○	職員は研修を受講し個々の相談に応じ家族支援を行っている。	ご家族と同じ視点で支援できるよう、個々に合った対応の仕方を検討し家庭でも出来る支援と一緒に考えていけるよう努める。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時や変更のあった時には必ず説明を行っている。	変更があった場合にはその都度丁寧に説明し同意を得ていく。随時質問を受け付けるとともにこちらからも確認していく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	見学、契約時には必ず説明している。提供すべき支援に加え法人が大切にしている支援、力を入れている支援についても話をしている。	引き続き同意を得ながら進めていくとともに同じ視点を持って子どもを育てていけるよう努める。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	必要に応じて面談を行っている。抱えている問題に素早い対応が出来るように心掛けている。	日頃より相談しやすい環境や関係づくりに努める。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	保護者が集える場所の提供を行っている。保護者同士が交流できるようクラス毎の給食試食会を開催した。	保護者のニーズを聞き取り、保護者同士が集うきっかけ作りを努める。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	申し入れがあった際にはすぐに動ける体制を取っている。事業所内で体制が取れない場合には法人内で協力し体制をとっている。	いつでも対応できる旨を保護者に伝え安心できる環境を作る。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月のお便りやSNSを使い発信している。	楽しみにしていただいている発信なので出来る限りの更新に努める。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○	同意を得るとともに事業所内では鍵のかかる場所に保管し職員間での取り扱いに注意している。	引き続き取り扱いには十分配慮した上でやり取りしていく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	個々に応じて伝達方法を変えている。	本人や保護者の特性を十分理解した上で出来る限り配慮していく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	地域の方々に知ってもらえるよう行事への参加を案内したり、地域のみイベントに出来る限り参加している。	施設を開放できる機会やイベントを企画していく。

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	マニュアルを策定し様々な場合を想定し訓練を実施している。	定期的にもマニュアルの見直しに努める。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	月に1回以上、災害時に備えた訓練や防犯訓練を実施している。	訓練を振り返り必要な物品をその都度検討し備える。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	服薬状況や予防接種、発作など健康状態がわかるよう、所定の様式にて保護者に記入してもらっている。	年度ごとに見直し情報の更新に努める。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	アレルギー調査を行うとともに必要に応じて医師の指示書を依頼している。	年度ごとに見直し情報の更新に努める。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	忘れず気軽に記せるよう共有の毎日必ず目を通すノートに記載している。	共有できるよう声を掛け合う関係づくりに努める。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	内部研修を行い全職員が考える機会を持てるようにしている。	全職員に周知できるよう繰り返し伝える機会を持つ。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	組織内でも検討を重ねた上で保護者に真摯に向き合うよう努めている。	やむを得ずの内容をきちんと全職員、保護者が理解できるよう統一した書式にて記載し情報を共有し、時期を決めて見直していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。